寄せ太鼓

北九州市立長崎街道
木屋瀬宿記念館
運営協議会 広報部会
北九州市八幡西区木屋瀬
三丁目16番26号(〒807-1261)
TEL 093-619-1149
FAX 093-617-4949

みんなで踊ろう宿場をどり！
成功させよう　宿場まつり

木屋瀬の持つ歴史的・文化的な遺産を存分に活かしたまつりとして、筑前こやのせ宿場まつりは、本年25回目を迎え11月5日に開催されます。

平成五年に立ち上げられ今日まで四半世紀の間、さまざまな曲折をたどりながら地道な地固めがされてきました。

このまつりは木屋瀬の主要な文化的遺産を中核として子どもから高齢者まで住民参加による自主的な企画と運営によるまつりとして成長してきました。また、近郷・近在など他地域との連携もすすみ内外から大きな期待を寄せられるものとなっています。今年は25回という節目を迎え、祇園まつり終了直後の七月に実行委員会が立ち上げられ、高宮実行委員長を始めとする役員体制や企画、広報、運営、事務局など体制固めも進みこれまで3回の実行委員会において具体的な検討が進められてきました。「みんなで踊ろう！宿場をどり」をキャッチフレーズに今回も子どもたちの可愛い開会宣言と北九州市の消防音楽隊の演奏からまつりの幕が切っておとされます。歩行者天国となる街道筋では、宿場をどりを中心に近郷の伝承盆踊りをメインに中学生の吹奏楽演奏、スタンプラリー、綱引き、はしご車の搭乗体験、大道芸などいろいろな企画が準備されています。

今年は伊馬春部生家で旧高崎家復元20周年記念として伊馬春部作品の朗読と弦楽演奏会、そして作品展など協賛行事として実施されます。また、まつりを盛り上げる、町並み資料館・青空市場やフリーマーケットと共に60店を越す蚤の市の出店もありまつりの賑わいが増進するものと思われます。

このまつりの成功のため住民の皆さんのご参加とご協力をお願いいたします。

木屋瀬宿記念館
広報部会
徳永　興紀

総合問い合わせ先
長崎街道
木屋瀬宿記念館
☎ 093 619・1149

今49号から、故 柴田泰助氏(元長崎街道木屋瀬宿記念館運営協議会こやのせ座運営部会長)が紅屋　泰助として平成22年から、「ひろば北九州」に連載した「筑前木屋瀬今昔歳時記」を掲載していきます。

故 柴田氏のこの記事は、地元木屋瀬の季節の伝統行事や伝承芸能並びに「木屋瀬いろは歌留多」を引用しての歴史風物　併せて地域のイベントなどを広く紹介した歳時記であります。地区の皆さんに今一度、木屋瀬宿のことを思い起こしていただくため、氏の連載記事を抜粋し、一部加除して「木屋瀬いろは歌留多」を中心に掲載いたします。

まずは、木屋瀬いろは歌留多の由来と作者の紹介です。

作　者

岩井屋不彫(ふちょう)(岩尾四十三郎(よそさぶろう)　明治43年～昭和57年)は、木屋瀬本町の造り酒屋「岩井屋」に生まれ　生涯の大半を地方政界に尽くした北九州市誕生の功労者。また俳句・短歌・絵画・版画などにも非凡な造詣が窺える文化人であり　こよなく郷土を愛し当地の伝統文化の継承・育成に努められ　今日ある「町づくり」の礎を築かれた方でございます。ちなみに不彫とは　高浜虚子・河東碧梧桐・青木月斗などと親交の深かった俳人で筑前植木は水門楼の主・阿部王樹門下で有る処の俳号でございます。

作　品

不彫が入院中の病院から毎日のように孫に宛て投函された葉書に描かれたもので木屋瀬ならではの風物や伝統・伝承などを多彩に織り込み考案され　不彫の非凡な造詣と郷土への深い思いが伺えると共に永い歴史に培われてきた木屋瀬のイロハを学ぶことのでき得る貴重な作品でございます。

制　作

この「木屋瀬いろは歌留多」は　正月恒例の「木屋瀬いろは歌留多大会」の開始にあたり　不彫の遺訓を継ぐ岩井屋の現当主・岩尾二郎氏のご厚意を受け限定制作（非売品）させて戴き　此れに私の拙き識から為る説明文をつけ、以来活用させ戴いて居ります。

シリーズ 筑前木屋瀬宿 神仏めぐり

第四十一回 誕生山 吉祥寺

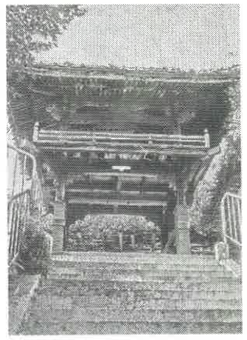
木屋瀬の名前の由来

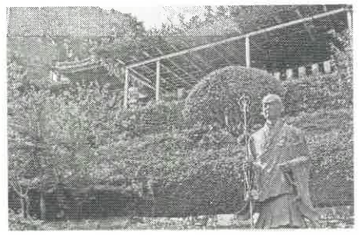
木屋瀬の名前の由来ですが、文書としての最古は、室町時代承平四年(九三四)に書かれた「和名抄」に遠賀郡「木夜郷」とあります。これが現在の木屋瀬のことではなかろうかと推定されています。

又文明十二年(一四八〇)京の連歌師飯尾宗祇が、「筑紫道記」という旅日記に、「木屋瀬の関」に泊まるとも書き残しています。「木夜」が木屋に、「関」が「瀬」に成ったのではなかろうかとも思われます。

木屋瀬町誌の地名考には、香月家譜によると、平安後期の聖光上人という高僧が明星寺を再建する際、豊後の国の臼杵氏から材木の寄贈を受け、芦屋港からイカダを組み、遠賀川の上流に運んだが途中、川辺に小屋を掛けて木材を保管した。「小屋の在る瀬戸」から木屋瀬と言うようになったという伝記を載せています。又隣の宿の飯塚の名前の由来の一つに、聖光上人が、明星寺の三重の塔を建立の為、民衆を集めて材木を運ばせたとき、飯が余って小山ができ、それがあたかも塚のようになったので、「めしつか」飯塚となったとする伝記も残っています。木屋瀬の一番古いお寺、長徳寺の、寺暦には、従来は天台宗であったが、度々聖光上人が寄寓され浄土法門を説かれたので、浄土宗として開基したと書かれています。これらの伝記等から、聖光上人は、当時の民衆に大変な信頼と影響を与えていた人物と思われます。

聖光上人とは、隣町の香月の生まれで、平安後期から、鎌倉時代にかけての浄土宗の僧です。名は、弁阿弁長のちに、聖光上人とも鎮西上人とも呼ばれています。初め天台宗の僧として、教学を究めるが、その後、京都に上り当時念仏の行者として名を成しつつあった法然上人のもとに、参じて念仏の教えを学びました。





四十三歳にして、法然上人のもとを辞し、故郷に帰り、念仏の教えの教化の道に入り、筑前筑後、肥後の各地を巡り念仏の教えを広め、筑後の豪族草野氏の帰依をうけ、九州の念仏道場の拠点として善道寺を開きました。現在は、浄土宗の第二租に数えられています。

聖光上人は、香月城主の一族の子として生まれましたが、母が産後の肥立ちが悪くまもなくこの世を去りました。

聖光上人は、難産で没した母の冥福を弔うとともに、同じ様な苦しみを持つ庶民の救済を願い自分が生まれた、香月の地に吉祥寺を建立しました。秋晴れの清々しい九月に、今は藤の名所として名高い吉祥寺を訪ねました。吉祥寺は、木屋瀬から車で10分位の距離で香月の町の小高い丘の上に伽藍を構えています。石段を登り境内に入ると本堂前は大きな藤棚が広がっています。御本尊の阿弥陀如来坐像は女人の安産を祈って聖人自ら彫られた霊佛であると伝えられ、市の文化財に指定されています。又境内には、中国から伝来の蓮の葉に覆われた、来迎弥陀三尊像や六地蔵、閻魔堂等があり、又著名な俳人の句碑や歌碑も建立されており、由緒ある寺の風格が感じられます。

青蓮華空広げつつ咲き始む　純せ
藤棚の下の浄土のこみあへり　白紅

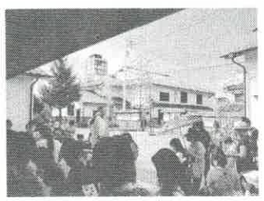
宿場木屋瀬街づくりの会 会長　野口靖彦

夏休みイベント報告

木屋瀬宿記念館運営協議会と木屋瀬宿記念館では、8月5日(土)にこやのせたなばたまつりを開催しました。

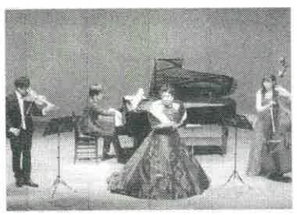
運営部会の皆さまの縁日や老人会の皆さまの昔遊び、人形劇、星座観察を行い、たくさんの子どもや親子が遊びにご来場いただいて、にぎわいました。さらに昨年好評であったホラーメイクを今年も行い、これにも多くの子どもさんに参加をいただきました。また、夕方には恒例のソーメン流しを行い大いに盛り上がりました。ご参加まことに有難うございました。

最後にイベント開催にあたり、ご協力をいただいた皆様に厚くお礼申し上げます。



こやのせ NewYearコンサート2018

平成30年1月21日(日)、響ホール室内合奏団の方を迎えて、こやのせNewYearコンサートを開催する予定です。



どの年代でも楽しめるような幅広い楽曲をご準備くださいますので、皆様のご来場をお待ちしております。

わたしの昔話

歌垣(新祝年)

春夏秋冬と移りゆく季節の恵みの中で私達の暮しは成り立っている。この自然との深いかかわりをもつ、いろいろな行事を昔から生活の知恵として守って来ている。そしてお祭や縁起や供養と言う言葉で、信仰として情緒として表現し、これを行う事により、自然の中での幸を得ている。

京都の大国神社や、あがた神社では暗闇祭りと呼ばれる祭りがあり、お祭り期間中の深夜灯し火を全部消して真暗闇となった拝殿の中において、静かに祭典が行われる。この拝殿いっぱいに若い男女がおこもりし、一夜を楽しく語り明かすのである。

筑波山や杵島山のお祭りでは、多くの男女がこの神の山の上に集まり祭典を行うが、その中に歌垣と呼ぶ楽しい行事がある。それは男女がその場で詩を詠み紙に記し、心当ての人と取り交わし、踊ったり歌ったりして楽しく過ごすのである。

暗闇祭りも歌垣も、若い人々の神の前での美しい求婚方式である。こうした若い人達の清々しいふれあいこそ、自然と人生のさわやかな交流である。

物を大切に(金銀)

江戸時代、町人の勢力が非常に強力になった。それは大名にまで、金銀の融通が出来るほどに、経済力を持ったからである。

それだけに町人は、商売繁昌を神や仏にお願いし、金銀が自分の所に集まる事を喜びとしてお金を初め物々を大事にしていた。こうした願いの一つに、年越しに家族皆で食べている年越しそばが考えられる。同じそばを食べて家族の一年を締めくくると言う楽しい習わしであるが、この習わしの起りではないかと、次の事が考えられている。

金銀細工を業とする人達は、大晦日に細工場の掃除や整理をする、この時、常日頃の細工仕事の折々に、金の粉や銀の粉が畳のふちや物の隅に掃ぎ取れないままになっているので、これを取り集めるために、そばの粉を練ってだんごを作り、これを押しころがして金粉銀粉を附着させて取り、このそばだんごをホーロクで焼けば、だんごは灰となり金粉銀粉は残るのである。

この縁起の良い行事は物を大事にする金銀細工業の人々が、来年も金銀が多く集まりますようにと、家内中でそばに願いをこめて、そばを食べるのである。

この縁起の良い年越しそばを食べる習わしが、一般に広まったのである。

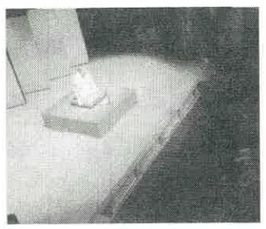
本町　柴田由美子

柴田豊廣遺稿集より

こやのせ座からのお知らせ(予告)

■こやのせ座落語会

木屋瀬宿記念館こやのせ座において、平成29年11月3日(祝日、金)にこやのせ座落語会を開催いたします。出演は、おなじみの林家きく麿師匠です。開演は14時(開場13時30分)で木戸銭は、大人五〇〇円(当日八〇〇円)中学生以下二〇〇円(当日三〇〇円)です。未就学児は無料となります。現在予約受付中です。ぜひ、家族そろってお越しください。



■年越しそば打ち

日時：平成29年12月29日(金)10時～15時
参加費：一二〇〇円(実食：かもそば)
※材料費。7人分持ち帰れます
※追加一〇〇〇円で別途7人分持ち帰れます
定員：30名(予約制)
※そば打ち名人に保存方法、調理法ほかを指導していただきます。
申込先：木屋瀬宿記念館
☎〇九三－六一九－一一四九
年越しそばの販売もしております。

■木屋瀬いろは歌留多大会

平成30年1月7日(日)、毎年恒例の木屋瀬いろは歌留多大会を開催する予定です。

木屋瀬の文化・伝統・風物詩が織り込まれた木屋瀬ならではの歌留多に触れる貴重な機会です。参加者には記念品を用意させていただく予定ですので、ふるってのご参加をお待ちいたしております。